

特集 震災で生まれた絆 広がる交流・連携の輪

岐阜県 国見町×池田町



●池田山（いけだやま・標高923.9メートル）
池田町のシンボル・池田山の山頂付近からは広大な濃尾平野が一望できる。
パラグライダー・ハングライダーの発進基地があり、スカイスポーツの聖地としても有名。

岐阜県



岐阜県 池田町

岐阜県の西部、岐阜市から約20kmに位置する人口約2万4千人の町。
良質なお茶の産地として知られる町の特産品は「美濃いび茶」。

▼池田山の麓に広がる特産品「美濃いび茶」の茶畑



東日本大震災をきっかけに
始まった交流

国見町と交流・連携を進める岐阜県池田町。遠く離れた両町が交流をはじめ、きつかけとなったのは、東日本大震災。復旧・復興支援のため、池田町から国見町へ応援職員が派遣されたことで、両町の交流はスタートしました。

応援職員の派遣期間が終了した後も、「くにみ産業祭」や「みの池田ふるさと祭」、お互いの道の駅などを通じて物産交流を続けてきた両町は、平成25年に災害時相互応援協定を、平成

27年には友好交流協定を締結し、交流・連携の輪を拡げさせてきました。



友好交流協定を結び、握手を交わす両町長（平成27年）

「物」から「人」の交流へ
みの池田ふるさと祭に参加

池田町とのさらなる交流・連携を深めるため、太田久雄町長はじめ国見町商工会青年部や青年農業者、国見町の小中学生からなる国見ジュニア応援団は、10月6日と7日に池田町で行われた「第41回みの池田ふるさと祭」に参加しました。会場内の国見町ブースでは、国見特産の果物などのPR販売が行われ、モモやリンゴを買い求める多くの来場者で賑わいました。

PR販売には、国見ジュニア応援団や池田町の子どもたちも参加し、「国見の美味しいモモです」などと来場者呼びかけ、国見自慢の果物をPRしました。ふるさと祭に参加した青年農業者の渋谷憲道さんは、「池田町には毎年楽しみに待っていてくれる人がいるので、今年も国見の美味しい果物を届けることができ嬉しいですよ」と、これまで培ってきた交流の深まりを実感していました。



1 岡崎和夫池田町長（左）にぶどうをPRする太田町長（右） 2 3 ふるさと祭で生産者とともに国見産の果物をPRする国見ジュニア応援団 4 名刺交換で交流 5 絆を深めた両町の子どもたち



■国見ジュニア応援団の声 池田町のみなさんの優しさにふれて

池田町は優しく明るい人ばかりで、池田町ジュニアリーダーズクラブのみなさんともすぐに仲良くなることができました。

ふるさと祭では、たくさんの方が国見町の果物を「おいしい」といって購入してくれたのでうれしかったです。

池田町や全国のみなさんに支えられて元気になった国見町をPRすることができたと思います。

国見ジュニア応援団
佐藤 圭将くん
(国見小6年)



次代へと受け継がれる絆

私たちの生活を一変させた東日本大震災。失われたものは数多くありますが、それと同時に、新たに生まれた「絆」もあります。その絆は、次代を担う青年農業者、商工業者、そして子どもたちによる交流を通して、さらなる広がりを見せています。

「来年も楽しみに待ってよ」。きつとそんな一言が、復興に向けて歩み続ける私たちの背中を、そっと後押ししてくれるのかもしれない。

—おわり—